

ま め

よいお年を！



アクスペによるアクスペのための情報冊子
magazine from arc-sp, magazine for arc-sp.

vol. **2**
2011年12月

第2号です！早いもので、今年も残すところあとわずかとなりました。いやー、本当に早いですね。みなさんにとって今年はどうな1年だったでしょうか？

アクスペも、文字にするとこのスペースでは収まりきらないくらい、今年もいろいろと活動してきました。そのなかでも大きな出来事のひとつとして、「えがくの設立」を挙げたいと思います。3月にNPO法人「えがく」を設立し、10月には介助派遣事業所「えがく」を立ち上げました。それまでは、他の事業所の力を借りて介助派遣をやってきましたが、えがくを立ち上げたことによって、自分たちで介助派遣ができるようになったのです。アクスペにとって、今年はまさに『自立』の年。この「まめ」のタイトルにちなんで考えると、今年はいくつかの出来事となる「さや」を作った1年と言えるのではないのでしょうか。

来年以降、今年つくったさやをみんなの力でもっともっと実りあるさやにしていけたら、と思います。そのささやかなきっかけとして、この「まめ」をこれからも発行していきたいと思いますので、みなさんからの提案や投稿、意見や反応などお待ちしております。

文：N・K



新人さんです

前号の「まめ」では紹介できませんでしたが、11月よりアクスペ職員として働いてもらっている柳本さんをご紹介します。

Y・Hさん



楽しみながら仕事をしたいです。

Q. 応募のキッカケは？

ヘルパーの資格を持っていたので、通勤しやすいところで働きたかった。条件が当てはまったからです。

Q. 最近ハマっていることは？

ワンピースを見ること

Q. 無人島に何か一つ持っていくとしたら？

持ち物ではないけど…話し相手



1 まずはお買い物。

3グループに分かれて本日のお料理の食材探し。
そろそろ、車道を



2 お得なトマト発見!

「Rさん、トマトに関するILPをお願いします。」

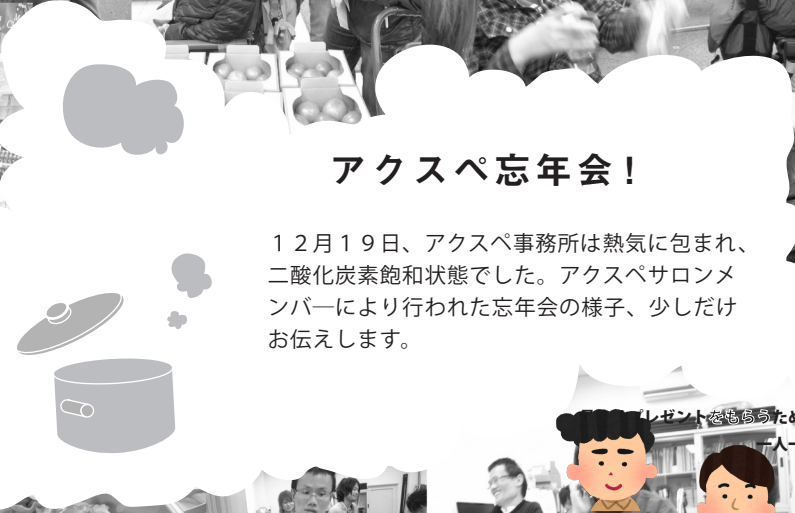


7 開始!

ぞくぞくと人がやってきます
身動きとれません」



3 何買しましょう～



アクスペ忘年会!

12月19日、アクスペ事務所は熱気に包まれ、
二酸化炭素飽和状態でした。アクササロンメン
バーにより行われた忘年会の様子、少しだけ
お伝えします。



8 ショータイムの始まりです。



4 お料理作り開始。



5 加古特性シチューの
途中段階です。



6 味見、味見、
そして味見……



プレゼントをもらうために、
一人一言。



9

なぜか緊張する舞台。
みんなの視線が集まります。

今年もありがとうございました。
来年もよろしくお祈りします。

写真&文：I



1

アクスベの来月の予定

arc-sp's schedule for next month.

アクスベの行動予定 & 代表・事務局長の動き
※スケジュールは12月23日時点でのものです。

代表および事務局長に相談・連絡・報告のある方は、お気軽に本人が事務所までお問い合わせください。

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
						1
2	3	4	5 事務所 仕事始め	6	7	8
9	10 年頭挨拶 (事務所開き)	11	12	13	14	15
16 運営会議	17	18	19	20 総務会議	21	22
23 ←	24 JIL 全国セミナー 【岡田・加古】	25 →	26	27 年度予算 仕分会議	28	29 総合福祉法 シンポジウム
30 JIL 関西ブロック 会議 【岡田・加古】	31	まめ [vol.2] 2011年12月23日発行 デザイン・編集/N・K 写真/I・M テキスト/I・M、N・K 印刷・製本/アークスペクトラム 発行所/アークスペクトラム				

今月のキッカケ!



老い衰えゆくことの発見

天田城介

角川選書 2011年

前回の「キッカケ」は非常に長ったらしく字も小さく、読むのを辞めた人も多かったように思います。が、だからと言って今回は丸くおさめようという気もなく(というか、分かりやすく簡潔にというのは何より難しく)また暴走するかもしれませんが、よければ付き合ってくださいか、このコーナーを乗っ取ってください。

さてタイトルの通り、今回は高齢者についての本です。しかし当然ながら、高齢者だから関係ないとはならず、私たち誰もが必ずいつかは老い、また周りに老人は必ずいて、という風に関係はあるはず。そして何より、「高齢者一家族一介護者」の関係は、「高齢者」を「障害者」と置き換えることができることもあり(当然できない部分もある)、そこから様々なことが浮かんできます。

本書には認知症高齢者にまつわるたくさんのエピソード具体的に書かれています。誰が意図するわけでもないのに、認知症は疫病神的なものとして、本人や家族を刈り取っていきます。しかし、認知症高齢者をとりまく現実を丁寧に見てみると、それを単に医学的観点から病気としてだけとらえることの薄っぺらさに気づかされます。

先日著者の講演会に行ってきたのですが、そこで次のようなことを言っていました。自分の知っている誰かが認知症になる。かつてできていたことがみるみるできなくなっていく。ただど家族はそんな中で、まだ「できる」ことをなんとしてでも発見しようとする。かつては「できていた」という事実があるからだ。それにとらわれ続ける限り、家族は辛い現実を生きなければならない。しかしそんな中においても、家族はあらゆることを発見する。「できる」ことと「できない」ことの境界線というものを発見し、そこに意味を見出す。それは、「できる=良い」「できない=悪い」という単純なものではない。愛憎伴う、嫌でも四六時中時間をともにしなければならないおそらく唯一の関係が家族だ。いつでもその場から逃げる

ことのできる専門家、介護者には、もしかしたら見つけれられない何かを、家族は見つけているのかもしれない。

人生の途中であらゆることができなくなる、という意味においては中途障害と共通する部分が多いのかもしれませんが、それでも「家族」というものの捉え直しの必要性を改めて考えさせられる名著だと思います。

文：I

sub 年末調整って何？

from 総務



■ 師も走るほど忙しいと言われる師走のこの時期、総務部もまさにその言葉通り多忙な時期となります。今回は、その要因のひとつ「年末調整」について、簡単に説明したいと思います。

■ 年末調整とは、その年に払った税金を計算して、払いすぎた分や足りていない分について確認し、清算する作業のことです。

■ 所得のある人(給与を受取った人)は、所得税を納める義務があります。この所得税は1年間の総所得(受取った全ての給与額)に応じて決まります。でも、1年分まとめて払うとなると大変なので、毎月少しずつ納めるのが一般的です。皆さんの給与からも毎月所得税が引かれています。給与明細の「源泉所得税」という項目にある金額が、その月に納めた所得税です。この毎月納めた分の合計と、1年の総所得に応じて決まる税額を照らし合わせて、過不足分を清算するのが年末調整です。また、子供がいたり、生命保険に入っていたりする場合は、所得税額が少なくなるので、それも年末にまとめて計算します。皆さんの多くの方に書いてもらった「～控除申告書」はこのためのものなのです。

■ かなり大雑把な説明となりましたが、なんとなく把握できましたでしょうか？ 疑問等あれば、お気軽に総務までお尋ねください。

--- END ---